

新春所感

展

2024年

## 「対話」と「共創」のまちづくり

磐田市長 草地博昭氏



するなど生活の安心に向け、様々な施策を進めています。

また、本市は、輸送機器や楽器などものづくりのまちとして

きましたが、現在は次世代産業の誘致活動にも力を入れていきます。「空飛ぶクルマ」を製造するスタートアップ企業や国内最大級のエビの陸上養殖施設の誘致に成功するなど、次世代産業による地域の活性化と雇用の創出を積極的に進めています。

さて、本市を取り巻く環境は国際情勢の不安定化、少子高齢化、デジタル社会の進展、激甚化する自然災害など、日々変化しており、これらにシなやかに対応することが求められています。しかし、行政だけでこれらの変化に対応することは困難であり、市民・地域・学校・企業・団体等と連携しながら、共に対応にあたる中で新たな価値を創り上げる「共創」が重要になると考えています。

そこで本市では基本目標である「安心できるまち、人が集まる磐田市」に加え「共創」をキーワードにした新たな3つの重点戦略を設定しました。

1つ目の戦略は、「働く場所・雇用の共創」です。若者やシニア世代、特に女性が活躍でき

るまちにするため、多様な業種の企業誘致や既存産業の育成などを更に推進します。

2つ目は、「住みたくなる・集まりたくなるまちに向けた共創」です。未来を担う子どもたちへの投資や子育て支援をはじめ、空き家なども含めた本市の資産の活用、加えて学びの機会の創出によるコミュニティづくりなどに取り組みます。

3つ目は、「新たな価値・魅力の共創」です。本市の宝・資源とも言えるスポーツをはじめとし、歴史・文化・自然環境など、自慢できる素材を更に磨き新たな価値や魅力の創造を図ります。

こうした「共創」の取り組みを推進するためには、職員も市民も含めそれぞれが過去・現在・未来の姿を学び合うことも大切であり、それらの学びの場づくりを継続させ、市民が安心を土台にウェルビーイング（幸福感）とシビックプライド（まちに対する市民の誇り）を実感できる、将来に希望が持てるサステナブル（持続可能）なまちの実現を目指し全力で取り組んでまいります。

本市は昨年6月の台風第2号に伴う豪雨で令和4年9月の台風第15号で決壊した二級河川敷地川の応急復旧箇所が決壊し再び洪水被害を受けました。現在も復興への歩みを進めておりますが、この間、様々な形で多くの皆様からご支援、ご協力をお願いしてきました。紙面をお借りし改めてお礼申し上げます。地域の安心・安全確保のため、引き続き国や県、関係団体と連携し迅速かつ的確に復興や流域治水対策を進めてまいります。

結びに、皆様方のこの1年がより良き年となりますよう心から祈念し、新年のあいさついたします。

明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、清々しい新春を健やかに迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

昨年は、市長就任以来大切にしている市民の皆様との様々な場面における「対話」の中で、コロナ禍を乗り越え地域の催しや祭典を再開できた喜びの声やジュビロ磐田のJ1昇格、静岡ブルーレヴズ、静岡SSUポニータの勝利に歓喜する声、大河ドラマ「どうする家康」で磐田と家康公との関わりを知った感嘆の声など、嬉しくなる言葉をたくさんいただきました。

一方で、長引く物価高のさなか、家計の厳しさや将来を不安に思う声が聞かれています。このため、本市は住民税非課税世帯を対象とした給付金に加え独自施策としてひとり親世帯を対象とした生活支援特別給付金を令和6年2月から順次支給することを決定しました。この他子育て家庭の経済的支援と相談支援を一体的に行う「iぼーと出産・子育て安心事業」を実施